

第3期みどり市地域福祉活動計画

みんなが輝く どんなときも支え合える 理想のまち

取り組み状況と評価



計画期間	令和2年度～令和6年度
評価年度	令和5年度（第4年次）

みどり市社会福祉協議会

目次

はじめに	1
1. 評価の目的 2. 表の見方 3. 評価の集計結果	1
基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり	2
活動方針（1）安全で安心して暮らせる地域づくり	2
活動方針（2）地域で生活に困っている人への対応	4
活動方針（3）地域で高齢者・障がい者・子どもを守り支える仕組みづくり	5
基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり	7
活動方針（1）気づきを共有する仕組みづくり	7
活動方針（2）地域住民の課題や相談を包括的に受け止める体制整備	8
活動方針（3）地域の課題を解決するための公私協働の実現	9
活動方針（4）福祉に関する情報伝達の充実	10
基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり	11
活動方針（1）地域福祉の意識向上と仲間づくり	11
活動方針（2）地域住民が集う拠点整備と既存施設の活用	13
活動方針（3）地域住民・ボランティア団体・NPO等の地域福祉活動の活性化	14
活動方針（4）民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備	16
基本目標 4 福祉の基盤づくり	17
活動方針（1）地域福祉推進の強化	17
活動方針（2）地域づくりや福祉課題解決のための財源の確保	18

はじめに

1. 評価の目的

第3期地域福祉活動計画では、第1期、第2期計画を継承して「みんなが輝く どんなときも支え合える 理想のまち」を基本理念とし、4つの基本目標を定めて令和2年度から令和6年度までの5年間で目標に向けて各事業を実施します。そのなかで、評価年度の各事業の成果と課題を評価・分析し、課題解決に向けてより効果的な事業を実施することを目的としています。

2. 表の見方

現状と課題	第3期計画に記載されている、策定時に把握した地域の課題を記載しています。
社協の役割	把握した地域課題の解決のために、第3期計画で定めた社協の役割を記載しています。
取り組み・事業名等	社協の役割に基づいて計画期間内に社協が取り組んだ事業名等を記載しています。
評価	各取り組み・事業を下記に基づいて評価しています。 A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった ※ 第3期計画で成果指標を定めた取り組み・事業等については、目標値に対する実績値も記載しています。
成果と課題	社協の役割に基づく主な成果と課題を記載しています。
今後の目標等	社協の役割に基づく次年度以降の重点目標を記載しています。

3. 評価の集計結果

評価	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度
A	14個	14%	13個	13%	34個	37%	35個	35%	
B	7個	7%	4個	4%	4個	4%	3個	3%	
C	27個	27%	52個	51%	49個	47%	59個	58%	
D	0個	0%	0個	0%	1個	1%	0個	0%	
E	6個	6%	6個	6%	4個	4%	2個	2%	
F	42個	43%	23個	23%	4個	4%	2個	2%	
G	3個	3%	3個	3%	3個	3%	0個	0%	
合計	99個	100%	101個	100%	99個	100%	101個	100%	

基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり

活動方針 (1) 安全で安心して暮らせる地域づくり

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯対策、防犯設備の整備が進んでいません。 ・ 歩道や信号などの設備が十分でないため、交通が危険なところがあります。 ・ 空き家や耕作放棄地があり、防犯・防災の面で心配です。 ・ 災害時の避難に支援が必要な人がいます。 ・ 災害への備えや、災害時の避難の仕方が分からない人がいます。
--------------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
地域が実施する防犯活動や防災活動を支援します。	市民活動支援用具貸出事業	評価	A	C	C	C	
	地域福祉活動推進事業補助金交付	評価	A	C	C	A	
	BCPの策定	評価	—	E	E	B	
	成果と課題	各地区の自主防災訓練の現地へ赴き、他地区の情報を得たいというニーズを把握することができた。実施前に情報を把握し、現地へ赴く必要がある。 また、社協では緊急時事業継続計画（BCP）を策定し、災害発生時においてもできる限りサービスを提供できるよう方針を整えることができた。					
	今後の目標等	各地区の自主防災組織の情報発信や情報交換ができるよう、引き続き現地へ赴き、住民のニーズに直結する支援ができるよう情報収集を行う。					
災害に備え、災害ボランティアセンターの機能を強化します。	災害ボランティアセンター設置	実績値	0回	0回	1回	1回	
	運営訓練	評価	F	B	A	A	
	H30 実績値 0回（目標値 1回）	評価	C	C	A	A	
	災害時の支援資機材等の備蓄・整備	評価	E	A	A	A	
	成果と課題	昨年度の災害ボランティアセンター設置運営訓練をもとに設置・運営マニュアルを修正し、群馬県総合防災訓練に活かすことができた。また、災害ボランティアぐんま・赤十字ボランティア等の市民参画を得て協働型災害ボランティア設置運営訓練を実施することができた。また、市内商工会へ災害時の連携について理解を得ることができた。しかし、青年会議所との連携や他市町村の災害ボランティアセンター訓練に参加することができなかった。					
	今後の目標等	県社協が進める地区別プラットフォームの設置に協力し、市内の商工会・青年会議所や関係機関と連携できるようにする。					
災害時の支援者を育成するとともに災害ボランティアグループの活動を支援します。	災害ボランティアの会会員数	実績値	19人	14人	0人	0人	
	H30 実績値 26人（目標値 40人）	評価	F	F	—	—	
	災害ボランティア養成講座	評価	F	F	B	A	
	成果と課題	地震体験車の体験や災害想定をしたカードゲームによる講座を開催し関心をもってもらうことで、講座後のボランティア登録につなげることができた。しかし、登録者数は数名である。					
	今後の目標等	他の分野で活動しているボランティアに災害時に活動できるか否かを聞き取り、ボランティア登録者数を増やしていく。					

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
災害時のボランティアに学生が参画できるように、桐生大学や大間々高校との連携を検討します。	桐生大学との連携	評価	B	A	C	C	
	大間々高校との連携	評価	E	B	A	C	
	成果と課題	夏休み期間に災害ボランティア講座を開催する周知を行うなど、学校との連携を図り、大間々高校では他事業の協力を得ることができた。しかし、講座の参加やボランティア登録には至らなかった。					
	今後の目標等	学生が参加しやすいボランティア企画を検討していく。					
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり

活動方針 (2) 地域で生活に困っている人への対応

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近所づきあいが希薄化しています。 ・ 孤立している人やひとり暮らしが心配な高齢者、貧困で困っている人がいます。 ・ 自動車を運転できない人が通院や買い物などへ行く際の交通手段に困っています。 ・ 自殺や孤独死の防止、再犯防止への対応が必要です。
--------------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
立ち直ろうとしている人たちを見守る更生保護活動に協力します。	社会を明るくする運動	評価	F	C	A	C	
	保護区保護司会、更生保護女性会の活動支援・協力	評価	F	C	A	A	
	成果と課題	保護区保護司会、更生保護女性会は、会議や研修会等に参加し、情報の共有を図ることができた。また、更生保護女性会では覚せい剤等薬物乱用防止啓発活動報告会が開催されたため、その準備支援にあたることができた。ただ、社明運動の目的や内容について、市民へ知られていない部分が多いことが課題である。					
	今後の目標等	社明運動について、のぼり旗やポスターで市民への周知啓発を行っていく他、保護司・更生保護女性会との連携を図りながら活動の支援・協力をする。					
生活困窮世帯の自立に向けて適切な資金貸付と相談支援に努めます。	各種福祉資金貸付世帯訪問回数	実績値	8回	8回	28回	30回	
	H30 実績値 40回 (目標値 70回)	評価	F	C	A	C	
	小口生活資金貸付事業	評価	C	C	A	C	
	法外援護費支給事業	評価	A	C	C	C	
	生活福祉資金貸付事業	評価	C	C	C	C	
	生活福祉資金貸付事業 特例貸付	評価	B	C	C	A	
	行路人貸付事業	評価	C	C	C	C	
	成果と課題	借受人の世帯訪問を県社協に同行して行い、生活状況の把握に努めたが、実際に会うことができる世帯は少ない状況である。多くの世帯が貸し付けだけでは解決できない課題を抱えており、生活困窮者自立相談支援機関との連携をより密にしながら、自立に向けた支援を行う必要がある。					
今後の目標等	相談に応じて適切な貸付に努めるとともに、貸付事業だけでは対応できないケースは、生活困窮者自立支援機関と情報共有し必要に応じて重層的支援体制整備事業につなげていく。						
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった		E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった					

基本目標 1 みんなが輝いて暮らせる地域づくり

活動方針 (3) 地域で高齢者・障がい者・子どもを守り支える仕組みづくり

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢になったり、障がいがあっても地域で暮らし続けられるか心配です。 ・ 子育て支援をより充実させることが求められています。 ・ 子どもを安心して遊ばせる場所が少ない状況です。 ・ 日常生活に支援が必要な高齢者や障がい者（児）が安心して生活が送れるよう支援が必要です。
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
地域が主体的に実施する健康づくり活動を支援します。	各種軽スポーツ用具の貸出件数 H30実績値 45件（目標値 70件）	実績値	26件	17件	39件	44件	
		評価	A	C	C	C	
	成果と課題	地区のイベントやサロン等で多くの種類の軽スポーツが活用され、次の用具貸出の依頼につなげることができた。しかし、貸出目標値には至っておらず、新軽スポーツ用具の案内方法等、周知をする必要がある。					
	今後の目標等	各種団体の会議やインターネットツールを用いて周知を行う。					
障がいのある人の日常生活を支援します。	福祉車両貸出件数 H30実績値 105件（目標値 140件）	実績値	91件	62件	47件	56件	
		評価	A	C	C	C	
	各種日常生活用具貸出件数 H30実績値 65件（目標値 80件）	実績値	31件	30件	25件	40件	
		評価	A	C	C	C	
	思いやり駐車場の利用証交付	評価	C	C	C	C	
	日常生活自立支援事業	評価	C	A	B	C	
	成果と課題	日常生活自立支援事業では、民児協定例会に出席し事業や生活支援員の募集について周知することができた。また、8件あった新規契約も、円滑に進めることができた。ただ、困難ケースやキャッシュレス決済の普及による金銭管理が行き届かない問題も増えてきており、専門員支援が多くなることで職員の負担も増えてきている。					
	今後の目標等	福祉車両貸出や各種日常生活用具貸出等、事業内容を社協だよりやインターネットツールを活用し情報提供を行う。					
子育て中の世帯同士が交流できる場を周知し、利用促進を図ります。	若年ひとり親世帯等の交流活動 参加世帯数 H30実績値 110世帯（目標値 145世帯）	実績値	13世帯	22世帯	13世帯	20世帯	
		評価	F	C	C	A	
	母子寡婦会の活動支援	評価	F	C	C	C	
	成果と課題	親おやくらぶ（ひとり親家庭企画の集い）を4年ぶりに開催し、直接意見を聴きとれる機会を設けることができた。また、母子寡婦会事業も新たな参加者はいるものの、入会に至らない現状がある。					
	今後の目標等	ひとり親世帯が楽しめる事業を参加者の意見を取り入れながら展開していく他、制度の情報提供や、悩み事などを聞き取り、新規事業に活かしていく。					

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
地域住民と一緒に地域の支え合い活動について話し合う場に積極的に参加します。	協議体への参加		評価	F	F	A	A
	成果と課題	定期的に会議を開催し、各地区の課題に向けた支援について話し合いを行うことができた。また、笠懸地区については、資源マップを完成させて必要世帯に配布することができた。しかし、第1層協議体への実施に向けた取組が不十分であった。					
	今後の目標等	活動がマンネリ化にならないよう工夫するとともに、第1層協議体を実施していけるよう取り組む。					
社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
交通事故による遺児の就学を経済的に援助します。	交通遺児就学援助金給付事業		評価	A	C	C	C
	成果と課題	今年度の対象者はいなかった。					
	今後の目標等	支給対象者に遺漏なく周知できるように関係機関との連携をしていく。					
高齢者や障がい者の権利擁護事業を推進します。	日常生活自立支援事業の自主運営	実績値	未実施	未実施	実施	実施	
		評価	E	E	B	C	
	成年後見制度の認知度	実績値	—	—	—	39.8%	
		評価	G	G	G	E	
	成果と課題	担当職員の研修で他市町村の対応を確認し参考にすることができた。また、専門員同士で情報共有し、利用者と顔合わせを行うことができた。ただ、成年後見制度については説明する機会を設けることもできず、周知を行えなかった。					
	今後の目標等	日常生活自立支援事業の周知に併せて成年後見制度の周知を行う他、研修等で専門員の自己研鑽を図り困難ケースの対応方法を学んでいく。					
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった			E 検討・調査・研究に+/とどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった				

基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

活動方針 (1) 気づきを共有する仕組みづくり

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援が必要な人が地域にいるか分からないと感じている人がいます。 ・ 日常生活の中でお互いに気にかけてくれる関係づくりが必要です。 ・ 支援が必要な人の情報を把握する仕組みが必要になっています。 ・ 地域の課題をどこに相談したらいいか分からない人がいます。
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
地域福祉活動の関係者同士の情報交換や連携を支援します。	各地区福祉部会長会議の開催回数 H30 実績値 14 回 (目標値 17 回)	実績値	3 回	7 回	7 回	10 回	
		評価	F	C	A	A	
	みどり市福祉部連絡会会議の開催回数 H30 実績値 3 回 (目標値 4 回)	実績値	1 回	0 回	2 回	3 回	
		評価	F	F	A	A	
成果と課題	定期会議の他、イベントや研修会に向けて必要数会議を開催することができ、情報共有を図る他、積極的に行事に取り組むことができた。また、市のイベントに参加し福祉部の周知を行うことができた。笠懸地区においてはレクリエーション交流会を開催し、多世代交流を行うことができた。取組みが研修会中心となったため、新たな取組みも検討する必要がある。						
今後の目標等	会議を開催し各地区の情報交換を行う他、市全体の福祉部活動を推進していくため、研修等の事業を支援していく。						
地域が進める見守り活動を支援します。	さざんかの会の活動支援	評価	F	F	—	—	
	ボランティア配食(笠懸地区)	評価	F	F	—	—	
	ボランティア配食(東地区)	評価	C	C	C	C	
	おせち料理配付事業※歳末事業	評価	F	A	C	C	
	敬老行事地区事業補助金交付	評価	A	C	C	C	
	地域福祉活動推進事業補助金交付	評価	A	C	C	C	
	福祉カレンダー配布事業※歳末事業	評価	C	C	C	C	
	成果と課題	各区が集まる会議等で情報提供をすることで、見守り活動の大切さや必要性を改めて感じる地区が増え、敬老祝品は、訪問して届ける地域が恒常化した。また、祝賀会も開催した地区も見られた。ただ、担い手側の人手不足(高齢化等)も懸念される。					
今後の目標等	見守り活動を行う各地区の関係団体等と連携を強化し、市内の取組みを公開することで、市内全体の地域福祉力を高めていく。						
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

活動方針 (2) 地域住民の課題や相談を包括的に受け止める体制整備

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 困ったことがあっても誰にも相談できない人が増えています。 ・ 地域からの孤立やひきこもりが心配な世帯があります。 ・ 困っている人が相談する場所が分かりにくい状況です。 ・ 市や関係機関の横断的な福祉・保健の相談支援体制を確立し、分かりやすく市民に知らせる必要があります。
-------	---

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
相談窓口の連携強化に努め、市民に広く周知します。	心配ごと相談	評価	F	C	C	A	
	群馬県ふくし総合相談支援事業	評価	B	C	C	C	
	成果と課題	大間々支所の移転については、準備や周知の徹底により、安心して相談を受けられる体制をとることができた。また、弁護士相談日の待機者数を把握し、キャンセル時に対応することもできた。弁護士相談は、希望の方が全て受けられる状況ではないが、待機者数を把握したことで、相談日の検討材料も得ることができた。					
	今後の目標等	相談員の研修を毎年開催し、技術向上を図るほか、他の相談窓口と連携し、早期解決に向けた取組を行う。					
福祉部内の情報の共有が円滑に行われるよう、支援します。	東町地区福祉部会長の支援	評価	F	C	C	C	
	大間々地区福祉部会長の支援	評価	F	C	C	C	
	笠懸町地区福祉部会長の支援	評価	F	C	A	C	
	成果と課題	必要回数の会議を開催し情報交換ができ、新たに地区事業に取組むところもあった。また、地域の活動の様子をインターネットツールで配信することができた。しかし、全ての地区の情報を把握できていない部分もあることから、積極的に地域活動に出向く必要がある。					
今後の目標等	各地区の活動に出向き、取組内容を会議のほか、広報やインターネットツールで積極的に発信し、情報共有を行っていく。						
様々な事業を通じて、支援が必要な人の情報を集めます。	おせち料理配付事業※歳末事業	評価	C	C	C	C	
	小口生活資金貸付事業	評価	C	C	C	C	
	心配ごと相談	評価	C	C	C	C	
	みどり市重層的支援会議への参画	評価	—	—	—	B	
	成果と課題	相談内容が複雑・多様化するなか、市が令和5年度より実施したみどり市重層的支援会議に参加し、ひきこもりやヤングケアラーなど、支援が必要な人の情報を共有し、支援の方向性について協議を行った。心配ごと相談員の研修会については世相に合わせた内容で開催することができ、相談に活かすことができた。小口生活資金では、世帯訪問時に本人の親族等に接触ができるも、生活再建に至っていないため、償還につながっていない。					
今後の目標等	課題を抱える世帯が増え、問題も多様化しているなかで、支援が必要な世帯に対して関係機関との連携を強化して個人情報の取扱いに留意しながら支援策を提示できるよう努めていく。						
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

活動方針 (3) 地域の課題を解決するための公私協働の実現

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制度の要件、サービスが合わず、対応できない事例があります。 ・ 子育てや介護など複合的な問題が絡み合う相談が増えています。 ・ 市などの相談支援機関が関係機関と連携を図っていく必要があります。 ・ 社会福祉法人に地域公益事業を行うことが義務付けられています。
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
住民の支え合い活動の周知や活動を実施するボランティアを育成します。	ボランティア講座（学生向け）	評価	F	F	A	C	
	ボランティア講座（一般向け）	評価	—	—	—	A	
	ボランティア団体等活動支援	評価	F	F	A	C	
	成果と課題	夏休みに学生を含めた災害ボランティア講座を開催し、小学生から高齢者の参加を得られた他、傾聴ボランティア講座を初めて開催し、両講座からボランティア個人登録を行った方もいた。さらに、講座の参加をきっかけに、ボランティア登録から団体活動に繋げることも出来た。しかし、参加した後に活動につながる方が少ないため、時期や内容等を検討し直す必要がある。また、各団体の高齢化や事業縮小傾向にあり存続が難しくなっているボランティア団体もある。					
今後の目標等	開催時期・内容等検討し学生や住民の関心が高い講座を開催し、ボランティア登録数の増加につなげていく。						
地域の課題や潜在的な社会資源の発掘・開発に取り組み、包括的に支援する体制づくりに努めます。	協議体への参加	評価	F	F	A	A	
	群馬県ふくし総合相談支援事業	評価	B	C	C	A	
	成果と課題	第2層の協議体の定期的な会議活動が始まり、笠懸地区では資源マップを完成させ、配付することができた。しかし、第1層協議体実施に向けた取り組みが不十分であった。群馬県ふくし総合相談支援事業では、研修会やイベントに参加し、市内法人施設職員と連携をとることができた。					
今後の目標等	協議体の定期的な会議を継続するとともに、マンネリ化をしないように内容や実施方法等工夫していく。						
地域の社会福祉法人が取り組む地域公益事業の情報を把握し、連携に努めます。	(仮称)社会福祉法人連絡会の設置（目標値 設置済）	実績値	未設置	未設置	未設置	未設置	
		評価	E	E	E	E	
	群馬県ふくし総合相談支援事業	評価	B	C	C	C	
	成果と課題	県社協が実施する情報交換会へ出席し、他の社会福祉法人と情報交換を行うことができた。法人連絡会立ち上げには、準備検討することが多く、すぐに設立に結び付けることが難しい状況である。					
今後の目標等	各社会福祉法人から更なる情報収集・情報交換を行い、設立に向けた準備を進める。また、群馬県ふくし総合相談支援事業でも、研修会やイベントに参加し、市内法人施設職員との連携を図っていく。						
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した</p> <p>B 新たに取り組んだ</p> <p>C 前年度と同様の成果・内容で実施した</p> <p>D 前年度より取り組みが不十分であった</p> <p>E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった</p> <p>F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した</p> <p>G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

基本目標 2 地域課題が解決へとつながる仕組みづくり

活動方針 (4) 福祉に関する情報伝達の充実

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 福祉の制度が分からず、必要なサービスをうまく利用できない人がいます。 情報を入力するまで時間がかかります。 						
社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
社協だよりの発行時期や発行回数を見直し、多くの情報を提供できるよう努めます。	社協だより発行回数	実績値	4回	4回	4回	4回	
	H30 実績値年 4 回 (目標値 年 6 回)	評価	C	A	C	C	
	成果と課題	印刷費の高騰の影響があったが、発行回数を減らすことなく維持することができた。発行回数・ページ数等、予算勘案しながら検討が必要である。					
	今後の目標等	発行回数を維持できるよう、掲載内容を部署と連携・協力し、多くの情報を提供できるようにしていく。					
さまざまな機会を通じて、福祉関連情報を提供します。	社協だより	評価	C	C	A	C	
	ホームページ及びSNSの活用	評価	A	A	A	A	
	福祉カレンダー配布事業※歳末事業	評価	C	A	A	C	
	成果と課題	ホームページをリニューアルしたことで、情報が探しやすく見やすくなった。社協だよりについても、分かりやすい記事づくりを心がけた。福祉カレンダーにおいて、一部不備があったため、正確な情報提供はもちろん、住民に分かりやすいものをそれぞれ作成していく必要がある。					
今後の目標等	幅広い年齢層、分野、地域の方が情報を得る手段の一つであることを意識し、定期的に見直し、住民の意見を聞くなどし、今後も見やすく分かりやすい紙面・ホームページとなるよう作成する。						
障がいのある人でも入手できる情報発信に努めます。	視覚障がい者等録音資料貸出事業利用件数	実績値	0件	0件	0件	3件	
	H30 実績値 4 件 (目標値 8 件)	評価	F	F	A	A	
	成果と課題	会員で勉強会を行い、録音方法をテープからパソコン編集に移行したことで、貸出から CD 配布となった。ただ、利用者が増えていないため、地域に周知していく必要がある。					
	今後の目標等	視覚障がい者だけではなく、字が見えづらくなった高齢者や、読み取りだけでは難しい外国籍の方も対象として利用者を増やしていく。					
<p>A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</p>							

基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

活動方針 (1) 地域福祉の意識向上と仲間づくり

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域で交流の機会が減っています。 ・ ゴミ捨てのマナーやペットの飼い方などのルールが守れない人がいます。 ・ 地域活動に参加する人が固定化していて、いつどこで活動があるのか分からない人がいます。 ・ 地域に住む外国人が増えています。
--------------	---

社協の役割	取り組み・事業名等	R2	R3	R4	R5	R6
お互い様の地域福祉活動の啓発を行い、助け合う意識や地域福祉について学ぶ機会を推進します。	ボランティア講座	評価	F	F	A	A
	成果と課題	災害や傾聴ボランティアなどの市民向け講座を開催し、地域福祉を見つめ直すきっかけづくりができたが、思うように参加者が増えない現状もあり、地域ニーズに合った講座内容を検討する必要がある。				
	今後の目標等	多様な講座開催や活動を周知することで、福祉にふれあえるよう企画をする。				
学校や地域福祉団体と協力し、福祉教育に取り組みます。	児童・生徒の福祉教育推進事業	実績値	100%	75%	72%	91.6%
	申請校の割合	評価	C	C	C	C
	H30 実績値 84.0% (目標値 100%)					
	各種福祉体験用具貸出件数	実績値	13件	11件	9件	12件
	H30 実績値 11件 (目標値 20件)	評価	C	C	C	A
	認知症サポーター小学生養成事業	評価	—	—	E	B
成果と課題	校長会で事業説明をし、市内の全ての学校からではなかったが申請につながった他、笠懸商工フェアやへるすぽフェスタ inMIDORI で福祉体験のブースを設け、学生や一般市民に福祉に対する関心を持ってもらうことができた。また、認知症サポーター小学生養成講座を市内3校で実施することができた。福祉体験用具の経年劣化も見られているため、必要に応じ購入する必要がある。					
今後の目標等	校長会やイベントの参加で事業案内を行い、認知症サポーター小学生養成事業の申請校も増やしていく。					
地域で行われる仲間づくり、地域福祉活動、世代間交流の場を支援します。	地域福祉活動推進事業補助金交付	評価	A	C	C	C
	成果と課題	各地区で行われている事業の情報発信や会議等で情報共有することで、餅つき大会や軽スポーツ大会など世代間交流事業を試みる地区もあった。コロナ禍のため数年感染対策を行い、趣向を凝らし世代間交流事業を行う区が増加し、軽スポーツ用具などの貸出支援も行うことができた。町内の情報交換は、会議等で行うことができたが、市全域への情報提供が不十分であった。				
	今後の目標等	各地区の事業を把握し、交流や仲間づくりの場に繋がるような活動ができるように情報発信をしていく。				

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
老人クラブ、障がい者（児）団体、母子寡婦会などが実施する社会性が高まるような団体活動や団体間の交流活動を支援します。	老人クラブの活動支援	評価	F	C	C	A	
	身障者連盟の活動支援	評価	F	F	F	C	
	手をつなぐ育成会の活動支援	評価	F	F	F	C	
	母子寡婦会の活動支援	評価	F	C	C	C	
	喫茶ぺちやくちゃの運営支援	評価	A	F	F	F	
	各種福祉団体県大会等参加支援事業	評価	B	C	C	C	
	成果と課題	会員の意見を取り入れ大会の回数を増やしたり見直し等を行い事業を開催し交流を図ることができ、手をつなぐ育成会については、新会員が9世帯も増加した。しかし他団体については、会員の高齢化や新規会員の減少がみられる。					
	今後の目標等	各種福祉団体の会員の意見を取り入れ、事業の支援や会員加入促進を支援していく。また、喫茶ぺちやくちゃの運営については、身障者連盟から障害者福祉センターつばさに主体が移行するため、スムーズに引き継げるようにする。					
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった			E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった				

基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

活動方針 (2) 地域住民が集う拠点整備と既存施設の活用

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に利用し、交流できる場が必要になっています。 ・ 気軽に仲間づくりをできる場が必要になっています。 ・ 公共施設だけでなく、企業などの民間施設の活用も求められます。
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等	評価	R2	R3	R4	R5	R6		
公民館など既存施設で活動している団体の啓発を行います。	ボランティア登録団体の啓発	評価	F	A	C	A			
	喫茶ぺちやくちやの運営支援	評価	A	F	F	F			
	成果と課題	ボランティアセンターに登録している団体以外も含め、活動の様子を社協だよりやインターネットツールで周知を行い、会員の活動意欲向上や社協のボランティア活動を知るきっかけづくりを行うことができた。一方で、高齢化等の理由により、活動維持が難しい団体やボランティア登録に加入しない団体もある現状がある。							
	今後の目標等	市内のボランティア団体の活動現場に赴き、情報発信や活動の情報を収集していく。							
地域で気軽に集い交流を深める居場所づくりについて住民が学べる機会を作ります。	研修会等の開催	評価	E	E	A	C			
	成果と課題	福祉部が主体となり、実際の地区サロンで役立つ研修会を開催できるよう支援を行い、参加者に居場所づくりや交流の重要性を学ぶ機会をつくることができた。							
	今後の目標等	住民が気軽に学べ、関心のある研修会を開催できるように、支援を行う。							
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった </td> <td style="width: 50%; border: none;"> E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった </td> </tr> </table>								A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった								

基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

活動方針 (3) 地域住民・ボランティア団体・NPO 等の地域福祉活動の活性化

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアへの関心が低くなっています。 ・ ボランティアセンターの活動内容が広く市民に周知されていません。 ・ 市民が気軽にボランティア活動に取り組める環境づくりが必要です。
-------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
ボランティアセンターの活動を強化します。	ボランティア個人登録（ボラ活動保険加入者）数 H30実績値 20人（目標値 40人）	実績値	5人	3人	8人	14人	
		評価	F	C	C	A	
	ボランティア団体登録（ボラ活動保険加入団体）数 H30実績値 26団体（目標値 35団体）	実績値	25団体	20団体	18団体	18団体	
		評価	C	C	C	C	
	コーディネート件数 H30実績値 18件（目標値 30件）	実績値	0件	1件	6件	11件	
		評価	F	F	C	A	
	ボランティアセンターの活動強化	評価	F	F	C	A	
	成果と課題	各種講座開催やボランティア活動の現地に赴き社協だより等でボランティア団体の活動の紹介を積極的に行ったことで、依頼や相談に対応し、コーディネートすることができた。しかし、ボランティア登録の増加はわずかしかなかった。					
	今後の目標等	多様なボランティア講座の開催や、市と連携しボランティア団体と顔の見える関係をつくることで、登録数の増加を図るとともに、ボランティア活動先の拡充を図っていく。また、来所せずに、インターネットでボランティア登録できることを周知していく。					
	地域のニーズに即したボランティアの各種講座を行い、担い手を育成します。	ボランティア講座の受講者数 H30実績値 13人（目標値 100人）	実績値	0人	0人	25人	58人
評価			F	F	A	A	
ボランティア団体等活動支援		評価	F	F	C	A	
成果と課題		災害・傾聴ボランティア養成講座を開催し、地域活動や既存の団体活動等に役立つことができ、さらにボランティア登録を行い活動する方もいた。ただ、講座の参加のみで終わってしまう方が多いため、その後の活動につなげていく必要がある。					
今後の目標等		様々なボランティア講座を通年開催することで、受講者数を増やし、その後の活動につなげていく。					

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
さまざまな機会を通じてボランティアグループの活動を啓発し、市民の関心を高めて、仲間づくりを支援します。	福祉に関するボランティアに関心がある割合 H30実績値 42.4% (目標値 60%)	実績値	—	—	—	44.3%	
		評価	G	G	G	C	
	ボランティアの活動経験がある割合 H30実績値 27.9% (目標値 40%)	実績値	—	—	—	29.7%	
		評価	G	G	G	C	
	社協だよりでのボランティア活動の紹介	評価	C	A	C	A	
	成果と課題	災害・傾聴ボランティア養成講座開催や、災害ボランティアセンター設置訓練の住民参加等、様々な機会でも市民に学んでいただくことができた。また、社協事業や市内のボランティア活動を社協だよりやインターネットツールで紹介したことにより、新たな会員の増加につなげることができた。今後、ボランティア受入れ先の情報収集をしていく必要がある。					
今後の目標等	住民がボランティアに関心を持ってもらえるように、多様な分野のボランティア講座を企画するとともに、市内のボランティア活動を社協だよりやインターネットツールで周知を行い啓発していく。						
NPO活動の情報を収集します。	NPO活動の情報を収集 (R3 より)	評価	—	A	E	A	
	成果と課題	行政から情報を得て、第4期地域福祉活動計画策定における団体アンケート時に、活動内容を収集することができた。					
	今後の目標等	市内のNPO活動の情報を得て、情報発信するとともに団体ボランティア登録の推進をしていく。					
社協事業で積極的にボランティアを受け入れるなど、ボランティア活動先の発掘と拡充に努めます。	ボランティアセンターの活動強化	評価	F	F	A	C	
	社協事業・運営施設でのボランティア受け入れ	評価	F	C	A	A	
	朗読ボランティアの活動強化	評価	F	E	A	A	
	成果と課題	朗読ボランティア会員同士で研修会を実施し、テープからパソコン編集へ移行することができた。また、ボランティア登録を受け付け、施設活動につなげることができたが、数人で留まってしまった。					
	今後の目標等	社協事業や市内ボランティア活動を実践するための場を紹介できるように、情報収集と開拓を行っていく。					
ボランティアのやりがいが高まるような仕組みづくりや社会教育分野との連携など、ボランティアが活性化する方策について検討します。	ボランティアセンターの活動強化	評価	F	B	A	C	
	ボランティア団体等活動支援	評価	F	F	A	A	
	朗読ボランティアの活動強化	評価	F	E	A	A	
	成果と課題	ボランティア講座受講後、団体活動やイベント支援に参加される方もいた。朗読ボランティア活動については、会員同士が積極的に研修や情報交換を行い、テープからパソコン編集に移行することができた。多くのボランティア団体会員の高齢化と減少が顕著であるため、活動を継続できるように会員の加入促進を支援していく必要がある。					
	今後の目標等	ボランティアの個人登録者数を増やし、団体活動への加入に結び付けていく他、福祉協力校や認知症サポーター小学生養成講座の事業を活用し社会教育分野と連携を図っていく。 また、朗読ボランティア活動のCD配布の周知を行う。					
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった							

基本目標 3 地域福祉活動の担い手づくり

活動方針 (4) 民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員・児童委員の活動が市民にあまり知られていない状況です。 ・ 地域福祉活動の担い手である民生委員・児童委員のなり手が少ない状況です。 ・ 民生委員・児童委員が行う活動の負担が大きくなっています。
--------------	--

社協の役割	取り組み・事業名等	R2	R3	R4	R5	R6								
民生委員・児童委員協議会と連携して地域福祉を推進していきます。	福祉カレンダー配付事業※歳末事業	評価	C	C	C	C								
	おせち料理配付事業※歳末事業	評価	C	C	C	C								
	生活福祉資金貸付事業	評価	C	C	C	C								
	成果と課題	おせち料理配付事業や福祉カレンダーの配付事業等により、民生委員と地域の一人暮らし高齢者の情報を共有することができた。また、生活福祉資金貸付事業では、民生委員を通じて、借受人の状況把握に努め、県社協とも連携を取ることができたが、民生委員が何度訪問しても借受人に会えず、生活状況を把握できないケースも多い。												
今後の目標等	民生委員・児童委員と連携し、事業を円滑に進めていく。													
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">A 前年度より成果・内容等が充実した</td> <td style="width: 50%;">E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった</td> </tr> <tr> <td>B 新たに取り組んだ</td> <td>F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した</td> </tr> <tr> <td>C 前年度と同様の成果・内容で実施した</td> <td>G 実施年度、または調査年度に該当しなかった</td> </tr> <tr> <td>D 前年度より取り組みが不十分であった</td> <td></td> </tr> </table>							A 前年度より成果・内容等が充実した	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった	B 新たに取り組んだ	F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した	C 前年度と同様の成果・内容で実施した	G 実施年度、または調査年度に該当しなかった	D 前年度より取り組みが不十分であった	
A 前年度より成果・内容等が充実した	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった													
B 新たに取り組んだ	F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した													
C 前年度と同様の成果・内容で実施した	G 実施年度、または調査年度に該当しなかった													
D 前年度より取り組みが不十分であった														

基本目標 4 福祉の基盤づくり

活動方針 (1) 地域福祉推進の強化

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社協の活動を市民に知らせることが必要であり、組織力の強化が求められています。 ・ 社協が地域の実情や課題に合った事業を展開することが求められています。 ・ 福祉活動を継続実施するためには、縦割りの事業を見直し、整理することが必要です。 						
社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6
自主事業や受託事業、施設の指定管理の見直しを図るとともに社協組織体制を強化します。	社協組織体制の見直し	評価	E	A	B	C	
	成果と課題	移転した大間々支所機能が低下しないよう職員体制を整備することができた。しかし、社協全体として正規職員が少なく人員も不足しており、配置が困難を極める状況である。					
	今後の目標等	人事考課制度、積極的な職員採用、国家資格所持者増加につながる取り組みなどを通じて、組織体制の強化につなげていく。					
多様な福祉課題に対応できる人材の確保・育成、財源の確保に努めます。	職員研修の充実	評価	C	B	D	C	
	資格取得費用の補助	評価	B	C	C	C	
積極的に地域に向き、地域の実情や課題の把握に努めます。	成果と課題	外部研修においては、積極的に参加することができた。ただ、内部研修について予算の関係上実施することができなかった。					
	今後の目標等	社内のニーズを把握し必要な研修への参加や人材育成につながる研修への参加を促す。また、職員各自でも資格取得等自己研鑽に努める。					
積極的に地域に向き、地域の実情や課題の把握に努めます。	地域活動への訪問支援回数	実績値	0回	1回	212回	105回	
	H30 実績値 未確認 (目標値 366回)	評価	F	F	A	C	
	成果と課題	各地区の行事やサロンに参加し、社協だよりやインターネットツールを用いて活動内容を発信することができた。また、地域に赴くことで、既存の福祉活動の担い手不足や多様な意見による地域活動の困難さの課題を把握することができ、支援内容についても検討していく必要がある。					
	今後の目標等	積極的に地域に赴き、現状把握を行い地域の課題の整理を行っていく。					
生活支援体制整備事業の協議体などを活用し、幅広い関係者による地域福祉活動計画の推進を検証します。	地域福祉活動計画の推進検証	評価	C	C	C	A	
	計画に基づく活動の実践	評価	F	F	A	C	
	成果と課題	第2層協議体に社協が作成した計画実施状況の自己評価資料を提示する他、ホームページにも掲載し、誰でも閲覧できるようにした。しかし、意見を伺うことができなかった。					
	今後の目標等	第2層協議体やホームページに社協が作成した計画実施状況の自己評価資料を提示し、住民の立場からの意見を聴取する。					
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった		E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった					

基本目標 4 福祉の基盤づくり

活動方針 (2) 地域づくりや福祉課題解決のための財源の確保

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続的な地域福祉推進のための財源を確保し、活用していく必要があります。 ・ 共同募金をはじめとする募金活動への理解がより深まるように、地域が必要としている福祉活動への配分に努める必要があります。
-------	--

社協の役割	取り組み・事業名等		R2	R3	R4	R5	R6		
社協活動への市民の理解を求め、会員加入を促進します。	社協会員加入率	実績値	71%	71%	70%	69.19%			
	H30 実績値 73.5% (目標値 80%)	評価	C	C	C	C			
	成果と課題	毎年加入率が減少している状況である。区の中では、自治会に未加入の世帯が増えている声もあり、加入率増加をどのように進めていくのか課題がある。							
	今後の目標等	インターネットツールを活用し、使い道を周知していくことで、加入率増加につなげていく。							
共同募金会と連携して共同募金運動の市民への理解が深まるよう啓発します。	赤い羽根共同募金協力世帯の割合	実績値	70%	69%	69%	67.9%			
	H30 実績値 74.1% (目標値 76%)	評価	C	C	C	A			
	地域歳末たすけあい募金協力世帯の割合	実績値	68%	68%	68%	66.5%			
	H30 実績値 71.4% (目標値 73%)	評価	C	C	A	C			
	成果と課題	赤い羽根共同募金、地域歳末たすけあい募金は協力世帯の割合が目標に届かなかったが、大間々高校による両募金の街頭募金への協力を仲介し、共同募金運動の推進と啓発に寄与することができた。							
	今後の目標等	共同募金の活用を、分かりやすく PR する他、インターネットツールや街頭募金の日数を増やす等して、住民に周知をしていく。							
社協会費や共同募金の配分金などを有効に活用し、地域福祉の推進を図ります。	社協会費の活用	評価	C	A	A	C			
	赤い羽根共同募金配分金・地域歳末たすけあい募金配分金の活用	評価	F	A	A	C			
	善意銀行預託金品の活用	評価	A	C	A	A			
	成果と課題	共同募金の配分金は、昨今の物価高騰の中、必要経費の見直しを行うことで事業の継続をすることができた。善意銀行は、市内の子ども食堂、学童や養護施設に必要な物品を払い出し、社協だよりやインターネットツールを用いて、活用を周知することができた。また、猫護会(保護猫活動ボランティア団体)等への指定の寄附を速やかに払い出し対応することができた。							
	今後の目標等	社協での利活用や外部への払出が見込める物品のみを預かるとともに、善意銀行の事業を周知して寄附の促進と地域福祉の推進を図る。							
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった </td> </tr> </table>								A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった
A 前年度より成果・内容等が充実した B 新たに取り組んだ C 前年度と同様の成果・内容で実施した D 前年度より取り組みが不十分であった	E 検討・調査・研究にとどまり、実施には至らなかった F 特別な事情により中止または規模を縮小して実施した G 実施年度、または調査年度に該当しなかった								